

国士舘大学大学院入学試験問題用紙

修士課程

一般選考・学内選考

研究科	専攻	試験科目	参考書等持込
法学研究科	法学専攻	(代替科目) 民法 I	不可

以下の問題について解答せよ。
抵当権における付加一体物について説明せよ。

令和8年度 国士舘大学大学院入学試験

出題の意図と採点のポイント

研究科名	法学研究科 法学専攻
試験期別	I期
試験区分	一般、学内選考
試験科目名	民法I (外国語代替科目)

■出題の意図

抵当権における付加一体物については、抵当権制度の基礎的な問題であると思われる。すなわち、付加一体物とは、抵当権の対象である不動産に付加して一体となる物に及ぶというものである(370条)。この付加して一体となった時期や付合物や従物といった物の状態などにより、さまざま議論がある。抵当権において基礎的で重要なテーマであることから、基本的知識をはかる上で有益な問題であると思われる。

■採点のポイント

大まかに、ポイントは5つである。1つは時期の問題であり、付加一体となった時期が抵当権の対象に関係するのかの説明がなされているか、2つ目は付合物であり、それが付加一体物となるのかの説明、3つ目は従物であるが、独立した物が付加一体物と見ることができるのか、4つ目は従たる権利であり、抵当権の効力が権利に及ぶのかという問題があり、5つ目は果実であり、抵当権の効力の及ぶ時期の法的扱いの違いを説明しているのが、採点ポイントとなる。